

「もったいない」

元が農耕民族のためかご飯粒を残さない、物を粗末にしない、と小さい頃から教えられてきた。しかし大学を卒業し、給料を頂くようになり気が大きくなったのか、あるいはバブル経済の時期と重なったためか、モノは使い捨てという考えが自分に浸透してしまった。

ある日自転車を買おうと思って先輩に相談すると、「いいのがあると思うから」と言われ、指定された日にある場所で落ち合うことになった。夜 9 時というのが少し気になったが、行った先で待っていた先輩の後ろには山と積まれた粗大ゴミが^(*)。色々な家財道具に混じって自転車も何台か捨てられていた。「●（私のこと）、いいの選んで持って行けよ。まだ使えるのにもったいないよな。」その先輩は頑丈そうな Toilet と書かれた戸板を車に乗せ、机にするからと持って帰った。私が持ち帰った自転車は 5 年ほど職場への往復に使い、その後は先輩に譲った。

これをきっかけに自分の「もったいない根性」が芽生えた。さすがに使えるものを探しに行くことはもうないが、今でもお弁当などに付属するお箸は洗って何度も使うし、紙は裏面をメモ帳がわりに綴じる。コード類、化粧箱や袋は何かに使えと置いている。ただ、「もったいない」は「整理できない」と密接な関係があるので気をつけないといけない。

今はリサイクルの仕組みが充実していて、多くの生活用品は姿を変え再利用される。しかし先輩から教わった「もったいない生活」は、ある意味時代を先取りしていたぞ、と思っている。

^(*) その頃（1980 年代）は粗大ゴミの日が数ヶ月に 1 回あり、集積場所が決まっていた。夜 9 時までには色々なものが捨てられ、集めれば文化的な生活ができるほどだった。9 時以降にはたくさんの人が集まっていたが、路上生活者とおぼしき人が多かった。懐中電灯片手に集積場所を「はしご」したことも懐かしい。